

【議会報告会】

○消防本部救急映像等伝送システムは既に運用されているのか。説明の中では市立四日市病院と県立総合医療センターでは運用されていると言われたが、その他の病院では実施されないのか。

⇒議員 既に実施しており、1年間で300件近くの運用実績があった。市立四日市病院へ導入し、非常に効果があったため県立総合医療センターにも導入したという経緯がある。四日市羽津医療センターでの実施は未確定である。

○若者の投票率が低いことは、将来の四日市市に大きく影響を及ぼすと考えるが、若者の投票率を上げるために、ショッピングセンターに投票所を設けたり、期日前投票所を増やしたりなどの対策を考えているのか。

⇒議員

- ・若者は多忙で、仕事や私生活を優先し、結果的に選挙のことまで考える余裕がない現状がある。議員が身近に感じる存在であれば、もっと選挙にも関心を持ってもらえると考える。四日市市議会では高校生議会やワイ！ワイ！GIKAIという若者向けの出前講座を開催しており、高校生と議員が意見交換をしている。そのような機会を通して、議員が身近な存在になることが重要だと考える。
- ・議会の取り組みと合わせて、教育分野でも選挙の必要性を教える必要があると個人的には考えている。

○大矢知地区は人口約1万4000人に対して、投票所が2カ所しかない。また、そのうちの1つは大矢知保育園であり、こども園ができれば、その保育園は廃園になると聞いている。人口に対して投票所が少ないので増やしてほしい。

○こども未来部に伝えたところ、「選挙管理委員会事務局に伝えておく」と言われているが、この場でも要望させてほしい。

⇒議員 ご指摘のとおり、人口に対して投票所が少ないと感じるので、担当部局に伝える。

○あさけプラザの体育館に冷房設備をつけてほしいと言ったところ、担当課から「小中学

校の方が先だ」と言われた。

○学校にいる学生も暑いと思うが、それは体育館の利用者も同じだ。どちらが優先というわけではなく、平等に考えてほしい。

⇒議員

- ・学校の空調設備の設置状況だが、やっと普通教室への設置が終わり、これから理科室などの特別教室に設置が始まる。その後、学校の体育館への設置が検討される予定である。
- ・公共施設への冷房設備の設置は十分な議論が必要であるとする。以前に四日市ドームへ空調設備をつけた時には、四日市ドームのアリーナでは、その広さから、空調設備の利用料金がかなり高額になった。空調を運転させてもすぐに効果があるわけではなく、利用する何時間も前から運転させなければならないので、さらに利用料金が増える。利用者の方の意見も聞きつつ、慎重に議論をしなければならないとする。

○あさけプラザは指定避難所なので、空調設備を早く導入してほしい。

⇒議員 東日本大震災で被災した仙台市では、体育館の屋根に太陽光パネルを設置して電気が節約できたと聞いている。そのような事例も参考にしつつ、今後の在り方を考えたい。

○大矢知興譲小学校は増改築を行ったが、その時に普通教室だけでなく、特別教室も一緒に工事を行えば合理的だったのではないかと問う。

⇒議員 空調設備の設置は、児童がいない長期休みの期間に行われる。その期間で市内の小中学校に設置するため、工事業者にも対応できる数の限度がある。そのため、優先順位をつけて、順次、設置している状況である。

【シティ・ミーティング】

《テーマ：防災について》

○配布資料の「防災ハンドブック」はどのように配布しているのか。配布状況を知りたい。

○避難行動要支援者名簿やマイタイムラインの作成状況を知りたい。

⇒議員 この「防災ハンドブック」は三重県災害対策本部の協力のもと、FM三重が作成して配布している。そのため、配布状況は市で把握していない。入手方法はFM三重に確認してほしい。

○避難行動要支援者名簿やマイタイムラインの作成状況を知りたい。

⇒議員 各地域の自治会や自主防災組織が一緒になって、避難行動要支援者名簿を作成している最中である。市議会から質問が上がるので、市の方も努力しているが、地域の協力がなくては作成できないので時間がかかっている。議会としても、しっかりと進捗確認を行いたい。各個人のマイタイムラインについては、とても重要な取組ではあるが、作成が進んでいないように感じている。

○他の自治体では、スマートフォンのアプリでマイタイムラインを作れると聞く。四日市市も他の事例を勉強してほしい。

⇒議員 地域により警戒すべき災害の種類が異なるので一律の対応は難しいが、行政に発災後の対応を全て委ねるのではなく、隣近所や自主防災組織とのつながりを核に、災害対応のことを考えなければ、自分一人では逃げるできない要支援者が犠牲になってしまう。助け合いを基本に考えてほしい。

○自治会ごとに防災への温度差がある。避難行動要支援者名簿は個人情報細かく書いてあるので、自治会内でどこまで共有していいものか、判断に迷う。

○近所の状況は、そこに住んでいる人であれば多少は知っているのに、要支援者かどうかにかかわらず、発災時には隣近所と声を掛け合ってもらいたいと伝えている。

⇒議員 自治会によっては、避難行動要支援者名簿に登録される本人に個人情報を共有していいかを尋ねているところもあると聞く。

隣近所で助け合うことは非常に重要だと思う。避難行動要支援者名簿上で自分が助けに行く要支援者がいたとしても、自分が被災して助けに行けない場合もある。そんなときは、自分以外の近隣住民に助けてもらう必要があるため、隣近所との関わりは重要である。

○あさけプラザは3階と4階が津波発生時の指定避難所になっているが、防災倉庫は1階にある。危機管理課へ3階以上の場所で、小さくてもいいから防災倉庫を設置するように依頼した。議員にも知っておいてほしい。

⇒議員 内水氾濫の可能性もあるため、防災倉庫は2階以上の場所にある方が望ましいと

考える。担当課に伝える。

○地震が発生しても、津波の心配がないときは体育館を避難所として使用するので、避難者のスペースが確保できる。しかし、津波の危険性がある場合に使用するあさけプラザ 3階と4階部分では、広さから100人程度が限界であり、避難所としては小さく感じる。1人あたりが使用できる面積は1畳もないため、横になることすらできない。

⇒議員 ご意見として賜る。津波をやり過ごす間だけ座って過ごすなら問題はないかもしれないが、長時間にわたって津波の危険度が下がらない場合、一晩をその状態で過ごすことは難しい。

○高齢者は日中にデイサービスへ通っている方も多い。発災時にそのままデイサービスに避難し続けるのか、地域の避難所に連れていくのかなど、介護施設と地域との連携が必要だと考える。

⇒議員 ご意見として承る。

○ペットと一緒に避難できる避難所はあるのか。または、事前に「ペット受け入れ可能」と表明している避難所はあるか。

⇒議員

- ・具体的にはない。
- ・他県にはアウトドアテントを活用した避難所の取り組みがあり、そこではペットも一緒に避難できたと聞く。そのため、市内でも防災倉庫にアウトドアテントを約20張を備えている地域がある。

○ペットとの避難は、地域で議題に出ても結論が出せなかった。「ペットがいるから避難所には行けない」という意見が出ると、話が進まなくなってしまう。

○避難所 HUG もやったがペットの話が出ると議論が進まなくなり、対応の結論が出ない。

⇒議員

- ・動物が好きな人も嫌いな人も一緒に同じ場所に避難するので、避難所でのペットの扱いは難しい。なので、避難場所を分ける必要があるが、指摘のとおり、避難所にできる場所も限られている。

・避難する居室を1階にして、簡単に外と行き来ができるように配慮した事例もある。

○「ここはペットと一緒に避難ができる」という避難所を、あらかじめ決めておくことはできないのか。

○学校の空き教室をペットの避難所として使うことはできないのか。

⇒議員

・市が決めるのではなく、自治会単位で避難所を運営しているので、話がまとまるとは考えにくい。また、ペットを受け入れる避難所を決めたとしても、その避難所から距離が遠い市民は行きたくても行けないという問題が発生する。

・学校は玄関が広いので、そこで対応することは考えられるかもしれない。しかし、空き教室は不測の事態が発生した場合に使用したり、新型コロナウイルス感染症のまん延時には、感染者が療養する部屋として使用する想定だった。そのように人命優先で教室を使用することになる。

○住民には「避難所に行けば十分な食料があり、そこに行けばなんとかなる」と勘違いをしている人が多い。避難所にある備蓄食料は最低限の量しかなく、避難する時に、自分の食料ぐらひは自分で持ってきてほしいと言っているが、他人事に受け取っているのか、全く聞いていない。

⇒議員 地域によっては、人口が多く、備蓄食料だけでは1日ももたない地域がある。個人で災害への備えをする必要があるが、防災への関心が低く、そのことを知らない市民も多い。

○あさけプラザは一定の震度を感知すると、防災ボックスの鍵が開き、誰でも施設の鍵を開けることができる。そのことを知らない住民が多い。防災倉庫の鍵を誰が持っているのか知らない人も多い。

⇒議員 集合住宅はあまり自治会に入らず、独自の管理組合を組織して、地域と関わりたがらないところも多い。そういった部分で十分に情報共有ができていない。

○避難行動要支援者名簿の「誰があなたを助けてくれますか」という欄に、複数人から同じ人の名前が挙がってきている。一人で全ての人を助けられるわけがなく、形骸化して

いるのではないか。

⇒議員 ご意見として賜る。